

=====

CONTENTS

- 卷頭言
 - 『現代中国』第85号正誤表
 - 事務報告
 - 地域部会活動報告
 - 2012年度学会スケジュール（予告）
- =====

【卷頭言】

現代中国研究と「文化」

毛里 和子（早稲田大学名誉教授）

2011年をまったく個人的に振り返ってみれば、まず311の東北大震災で、大自然の暴力の前に人間の営みはまことにひ弱く、無情につぶされてしまうという嘆きに始まりました。そして秋、「2011年の文化功労者として顕彰したい」という連絡を文部科学省から受け、驚きと恥ずかしさで愕然としている内に幕が下りてしまった、という感じです。

「恥の多い生涯を送って来ました。」これは、太宰治「人間失格」冒頭に出てくる言葉ですが、11月4日、「あなたは文化の向上発達に関しとくに顕著な功績をあげられました」という文部科学大臣名の「顕彰状」をいただいたとき、この言葉が脳裏に浮かびました。

「文化」に値する何事もしてこなかったし、普段の毛里流言い方に従えば、国際シンポジウムとパワーポイント（もう一つは携帯電話、これはほとんど使いません）で思う存分文化を壊してきた人間としては、身が竦む思いがしました。

もう一つ痛感したことがあります。現代中国研究での貢献が評価されるのはとても嬉しいことですが、私自身、日本における中国研究の戦前からの膨大な遺産をほとんど無視して突き進んできたために、その研究には大きなエアポケット、欠落があり、そのため顕彰される資格がないのではないかと、ということです。平野健一郎氏などのご尽力でできた『インタビュー戦後日本の中国研究』のなかで、40年間の「私の中国研究」について雑感を述べましたが、1960年代前半から中国研究の門をくぐった私の場合、中国への侵略についての「強い反省」や、グローバルなイデオロギー対立の影響を強く受けました。その結果の一つが、戦前の中国研究への全否定でした。加齢が進めば進むほどに、「ああ、もったいな

いことをした」と痛恨の極みであります。(今回のニュースを聞いてすぐに宮崎市定全集を購入、2012年の課題図書といたします。)

正直なところ、「功労者」の称号には恥と戸惑いと不安の方が多いのですが、他方で、私のような、女性で、東大にも京大にも縁がなく、ハーバード大学の門をくぐったこともない、しかも、現代中国研究のような「やくざな学問」をしてきた傍流中の傍流である人間の活動が、一部の方の目にとまり、このような形で榮譽を受けることは、率直に言っても嬉しいことです。ちなみに、文化功労者制度は1951年にスタートしていますが、以来60年間、功労者として顕彰されたのは、中国政治や東洋史部門では津田左右吉氏、吉川幸次郎氏、宮崎市定氏、石川忠雄氏、斯波義信氏などの各氏、女性の社会学者は中根千枝氏、緒方貞子氏のたったお二方です。社会・人文科学分野の外国人研究者も、マリウス・ジャンセン氏、ドナルド・キーン氏とたったお二方です。

現代中国はますます「手に負えなくなって」います。近現代史上で世界の人々が経験してきたあらゆる現象がいまの中国では観察できます。しかし、近代化モデルでも、東アジアモデルでも、「中国は中国」モデルでも、今の中国を分析することは不可能になっています。文科省特定領域研究「現代中国の構造変動」(1996年～98年度)以来、私自身は、(ごまめの歯ぎしりにも似た)三つの挑戦を続けています。(1)二項対立ではなく三元構造で中国を切る、(2)中国特殊論をいったん棄てて、日本を含むアジア諸国、ロシア、脱社会主義国などとの比較を通じて中国を相対化する、(3)政策の変化に誑かされることなく、制度、つまり中国流の言い方をすれば、「用」ではなく「体」が変わっているのかという「制度化」の視点で中国を観察する、などがその「三つの挑戦」です。

今回のことを契機にして、「三つの挑戦」を続けながら、もう一つ、自分にノルマを課したいと考えています。日本の中国研究を、米国、アジア、そして肝心の中国に強力に発信することです。この仕事はとくに、豊富な留学経験と対外交流を進めている若い世代に引き継いでほしいと切に思います。

【『現代中国』第85号正誤表】

2011年9月30日発行の本学会研究年報『現代中国』第85号において、多数の校正直し漏れ・誤植が見つかりました。すでに出版業務を委託している創土社より学会員のもとへは正誤表が郵送されていますが、記録として残す意味でも改めてニューズレターに正誤表を掲載させていただきます。

なお、再発防止に関する議論については、本ニューズレター【事務報告】2011年度理事会議事録の報告事項「4. 編集委員会報告」をご参照ください。

会員各位

このたびは、版元の不手際により、左記の誤植が発生していました。執筆者の方々、並びに会員の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。 創土社 編集部

『現代中国』第85号 正誤表

頁段行など	誤	正
36 頁左段 4 行目	確立	共有
38 頁左段 19 行目	失敗続く	失敗が続く
43 頁右段 21 行目	領土の一部	領土の一部とすべき
44 頁右段 25 行目	進行過程での一つの過程	進行過程での一つの表象
59 頁右段 27 行目	長篇劇映画『閻瑞生』(任彭年監督、1922 年)	長篇劇映画『閻瑞生』(任彭年監督、1921 年)や中国影片会社の短篇コメディ『飯桶』(盧寿聯監督、1922 年)
60 頁左段 6 行目	内外の販路を確保し得た	内外の販路を確実に確保し得た
60 頁左段 31 行目	実際の殺人事件取材した	実際の殺人事件に取材した
62 頁右段 2 行目	笑舞台和平社関係者中心とし	笑舞台和平社関係者を中心とし
75 頁表 1	注 唐壽民 日清紡紡織長 東洋紡織社長	出所 唐寿民 日清紡績社長 東洋紡績社長
76 頁左段 25 行目	中日貿易協会と	しかし中日貿易協会と
79 頁右段 12 行目	同興紡 豊田紡績	同興紡織 豊田紡織
79 頁右段 13 行目	上海紡績	上海紡織
79 頁右段 29 行目	中国側棉業	中国側の棉業
80 頁右段末	東洋紡 裕豊紡織	東洋紡績系 裕豊紡績
82 頁左段 20 行目	児玉謙次	以上児玉謙次
86 頁注 52	在華日本紡織同業会理事 裕豊紡織常務取締役 菱田逸治	在華日本紡績同業会理事 裕豊紡績常務取締役 菱田逸次
145 頁左段 6 行目 146 頁右段 3 行目	五族共和	五族協和

【事務報告】

■2011年度理事会議事録

日時：2011年10月21日（金）19：00～21：00

場所：学校法人常翔学園（摂南大学）大阪センター3F「レストラン翔」

冒頭に、瀬戸理事長よりこの一年間学会活動が活発に行われた旨の挨拶があった。

□報告事項

1. 会務報告

辻事務局長より以下の会務報告がおこなわれた。

1) 経過（ニューズレター、学会HP掲載事項は省略）

- ・『資料・日本現代中国学会の60年』が発行され、事業計画内容は全て順調に実行された。
また、学会ホームページの移行作業が終了した。本年も質の高い学会活動を行うことができた。
- ・常任理事会は学会の日常の意思決定機関として機能している。1月、7月の二回の常任理事会は、2011年の全国大会開催校が関西であるため、関西で開催した。その他、随時常任理事会メーリングリスト、理事会メーリングリスト意見交換を行った。

2) 組織実勢

- ・会員数は、2011年9月30日現在714名（昨年同時期681名）。
- ・新規会員56名、復会会員4名、退会者27名で33名の増加。昨年の増加が15名であったので、倍増となった。

3) 財務状況

- ・これまで会費納入割合は、07年66.1%、08年80.3%、09年82.5%、10年85.3%と年々上昇してきたが、2011年は81.4%に留まった。
- ・『資料・日本現代中国学会の60年』を発行し、約100万円の支出があったが、繰越金から支出。60年資料の発行を除けば、全体としてはわずかに黒字。とはいえ繰越金は確実に減少している（約100万円の減少）。
- ・収入の増加のため、学術振興会・研究成果公開促進費を申請・承諾された（助成額90万円、会計年度としては12年度予算に計上）。今後引き続き申請の予定。
- ・特別支出を除けば、全体としてわずかながら黒字に転換し、また、学術振興会・研究成果公開促進費の引き続き申請を予定していることから、来年度の会費値上げは行わない。

2. 会計報告

北川会計担当理事より、会計報告がおこなわれた。

なお、梁雯会計監査は総会までに会計監査をすることが難しいので、総会での会計監査は

梁雯会計監査から中川涼司会計監査に委任された。総会終了後、北川会計担当理事が梁雯会計監査と会い、会計監査をお願いする旨の報告があった。

3. 地域部会報告

趙宏偉関東部会代表、日野みどり関西部会代表、通山昭治西日本部会代表より、各地域部会の活動報告がおこなわれた。

4. 編集委員会報告

厳善平編集委員長に代わり辻事務局長より、委員長作成資料に基づき『現代中国』第85号編集委員会報告がおこなわれた。今回、編集漏れトラブルが発生した経緯が説明され、その原因および対処方についても報告された。来年度も同出版社から出版をするが、トラブルを回避するためにグラ校正の回数を二回とする方向で検討する旨報告された。

元編集担当理事より同出版とは以前にもトラブルがあったことが報告され、編集委員会で引き継ぎされていないことに懸念を寄せられた。また、校正を二回にすると経費が嵩むので校正を一回にした経緯が説明された。提出原稿は完成原稿であることが基本であり、校正回数は一回でもいいのではないかという意見が出された。次期出版は編集委員会の決定を尊重するが、今後は出版社の変更を検討してもいいのではないかという意見も出された。

5. 広報委員会報告

大澤武司ニューズレター担当幹事よりニューズレターが順調に発行され、また王雪萍HP担当幹事より学会ホームページの移行が終了し、順調に管理されている旨報告が行われた。

6. その他

特に報告はなかった。

以上の報告をいずれも理事会として承認した。

□審議事項

1. 新入会員承認

新入会員8名（うち一名は復会）が承認された。

2. 事業計画案

辻事務局長より以下の事業計画案が提案され、討議の結果、決定した。

1) 来年度全国大会

会場校は一橋大学、開催日時は2012年10月20・21日（第三土・日）とする（アジア政経学会には上記日程を通知済み）。坂元ひろ子理事（一橋大学）を中心に実行委員会を組織する。

2) 編集・広報活動

・『現代中国』86号を編集・発行する。具体的内容は編集委員会に一任する。

・広報委員会が中心となり、ニューズレター（年三回）を発行し、学会ホームページの充

実に努める。

3) 地域部会の活動奨励

3. 予算案

北川会計理事より提案があり、討議の結果、総会に提出することを決定した。

4. 規約、内規の一部改訂

通山組織検討委員長より「理事長及びその他の役員選出手続きについての理事会内規一部改正案」が提案され、承認・決定された（総会で報告）。また、「日本現代中国学会規約一部改正案」が提案されたが、継続審議のうえ、再度理事会に提案することとなった。

5. 役員関係

以下の人事が承認された（総会で報告）。

- ・西日本部会代表（常任理事）の交代：通山昭治（九州国際大学）→新谷秀明（西南学院大学）
- ・幹事の任命：大澤武司（熊本学園大学）、王雪萍（東京大学）、内田尚孝（同志社大学）
- ・理事地域部会配分数の見直し

関東部会理事定数 30 → 25 関西部会理事定数 15 → 20

また、来年の理事選にともない以下の選挙管理委員候補者を選出した（総会で審議）。

関東部会：総会までに選出

関西部会：阿部範之（同志社大学）、根岸智代（大阪大学大学院生）、若松大祐（京都大学研修員）

西日本部会：金縄初美（北九州市立大学）

6. 東海部会(仮称)の設立について

事務局長より、これまでの東海部会設立への経緯が報告された。新部会設立に関しては継続審議とし、総会では経過報告に留める。

7. その他・総会準備

黄英哲理事（愛知大学）および松岡純子理事（長崎県立大学）を総会議長候補者とした。その他議題の提案はなかった。

■2011 年度総会議事録

日時：2011 年 10 月 22 日（土）17：10～18：10

場所：近畿大学東大阪キャンパス E キャンパス A 館（文芸学部）301 教室

* 理事会議事録と内容重複部分は省略。

黄英哲会員（愛知大学）および松岡純子会員（長崎県立大学）を総会議長に選出した。瀬戸理事長よりこの一年間学会活動が活発に行われた旨の挨拶があった。

□報告事項

1. 会務報告

理事会会務報告に加え、現在、愛知県在住理事を中心に東海部会（仮称）の設立が検討されている旨の報告がおこなわれた。

各専門委員会報告、各地域部会報告は会務報告に一本化し、辻事務局長より報告された。

2. 会計報告

北川会計担当理事より、会計報告がおこなわれた。

3. 会計監査報告

北川会計担当理事より、梁雯会計監査は総会までに会計監査をすることが難しいので、総会での会計監査は梁雯会計監査から中川涼司会計監査に委任され、総会終了後、北川会計担当理事が梁雯会計監査と会い、会計監査をお願いする旨の報告があった。

中川涼司会計監査より会計は適正に運営されている旨の報告があった。

4. その他

辻事務局長より、西日本部会代表（常任理事）の交代、幹事の任命および理事地域部会配分数の見直し（関東部会理事定数30→25 関西部会理事定数15→20）に関する報告があった。

中川涼司会員より、理事地域部会配分数の見直しは報告事項ではなくて、審議事項ではないかという疑問が上がったが、瀬戸理事長より理事地域部会配分数の見直しは規約改正ではないため理事会決議事項（総会報告事項）である旨の発言があった。

続いて『現代中国』第85号の校正漏れについて説明があった。

また、「理事長及びその他の役員選出手続きについての理事会内規一部改正」が理事会で承認・決定されたことが報告された。

理事長及びその他の役員選出手続きについての理事会内規一部改正（理事会で承認）

記

改正の趣旨

理事長候補者は被選挙理事に限るが、副理事長候補者は被推薦理事でもよいことを明確にするため。

第2条② 新たな期の全ての理事が決定された後の直近の常任理事会において理事長候補者及び副理事長候補者を定める。直近の常任理事会で定めることができない場合には、遠隔通信による意見交換を含む常任理事会で可能な限り早く理事長候補者及び副理事長候補者を定める。但し、理事長候補者については個人会員の選挙により選ばれた理事に限るが、副理事長候補者はその限りでない。

(2010年10月16日決定)
(2011年10月21日一部改正)

以上の報告は、いずれも総会で承認された。

□審議事項

1. 事業計画案

辻事務局長より事業計画案の提案があり、討議の結果承認された。

2. 予算案

北川会計理事より予算案の提案があり、討議の結果承認された。

3. 役員関係

辻事務局長より来年の理事選にともなう選挙管理委員候補者の提案があり、討議の結果承認された。

関東部会：久保茉莉子（東京大学大学院生）

関西部会：阿部範之（同志社大学）、根岸智代（大阪大学大学院生）、若松大祐（京都大学研修員）

西日本部会：金縄初美（北九州市立大学）

以上

【地域部会活動報告】

■関東部会

下記のテーマにて関東部会定例研究会が開催されました。

日時：2012年1月7日（土） 13:00～17:00

場所：法政大学市ヶ谷校舎 F309 教室

テーマ：『中国農業の持続可能性』

- ・ 解題と紹介 司会：丸川知雄
- ・ 第一報告：山田七絵氏（日本貿易振興機構アジア経済研究所）
「持続可能な農業に向けた取り組み—都市近郊農村における社区支持型農業を中心に」
- ・ 第二報告：大島一二氏（桃山学院大学）
「持続可能な農業の構築に関わる企業の取り組み—山東省「朝日緑源」の事例」
- ・ 第三報告：森路未央氏（日本貿易振興機構）
「食品安全関連規制と持続可能な農業」
- ・ 討論・池上彰英氏（明治大学）
- ・ 自由討論

【2012年度学会スケジュール（予告）】

■関東部会春季修士論文報告会

日時：5月12日（土） 13：00～18：00（予定）

※19日（土）に変更の可能性があります。また時間帯も変更の可能性があります。

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス

※詳細は改めてお知らせ致します。

■西日本部会春季研究集会

日時：2012年5月26日（土）

場所：西南学院大学

※詳細は改めてお知らせ致します。

■関西部会大会

日程：2012年6月9日（土）

※詳細は改めてお知らせ致します。

場所：摂南大学大阪センター（大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ3F）

■2012年度全国学術大会

2012年10月20日（土）、21日（日）、一橋大学での開催を予定しています。

報告者の公募など詳細については随時学会ホームページなどで告知させていただきます。

=====

日本現代中国学会事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22

大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局

TEL：03-5307-1175 FAX：03-5307-1196

genchu@univcoop.or.jp

郵便振替：東京 00190-6-155984

広報委員長：辻美代（流通科学大学）

ニューズレター編集：大澤武司（熊本学園大学）

日本現代中国学会 HP：<http://www.genchugakkai.com>

=====